

九州経済圏貿易統計のポイントについて (令和8年7月分：速報)

<対世界>

○輸出総額:1兆2,021億円(伸率: +13.8%) ⇒ 4か月連続のプラス

・順位:1位

【順位は、昭和54(1979)年1月以降(571か月、7月は48か月)による。以下同じ。】

・増加品目:石油製品(同6.2倍)、半導体等製造装置(同+30.9%)

○輸入総額:1兆1,473億円(伸率: +38.7%) ⇒ 2か月連続のプラス

・順位:4位、7月としては1位

・増加品目:原粗油(同2.4倍)、金属鉱及びくず(同+25.6%)

○差引額:548億円(伸率:▲76.1%) ⇒ 18か月連続の輸出超過

・順位:176位、7月としては17位

為替レート: 2026年7月:161.83円/ドル(2025年7月:145.56円/ドルと比べ11.2%の円安)

<品目別動向>

○輸出

石油製品(46億円→289億円、伸率:6.2倍)は、オーストラリア(7百万円→89億円、同1261.0倍)及びバングラデシュ(実績なし→56億円)向けが増加し、8か月ぶりのプラスとなった。

また、半導体等製造装置(747億円→978億円、同+30.9%)は、韓国(239億円→371億円、同+55.2%)及び中国(360億円→418億円、同+16.0%)向けが増加し、5か月連続のプラスとなった。

一方、鉄鋼(713億円→629億円、同▲11.7%)は、インド(59億円→14億円、同▲76.9%)及び中東(43億円→16億円、同▲63.3%)向けが減少し、3か月ぶりのマイナスとなった。

○輸入

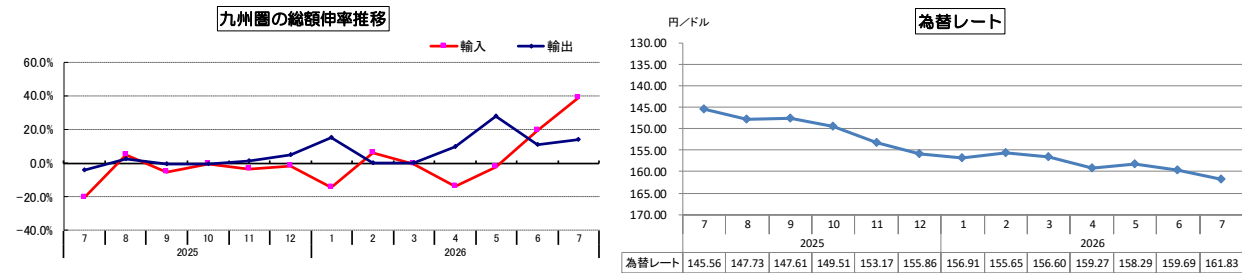
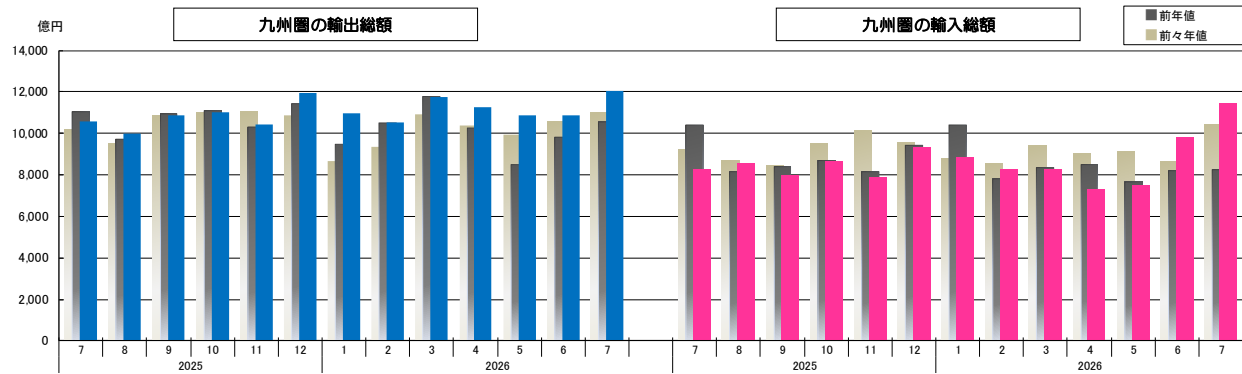
原粗油(200万KL→274万KL、伸率: +37.2%、1,305億円→3,187億円、同2.4倍)は、アメリカ(実績なし→128万KL、実績なし→1,523億円)及びサウジアラビア(52万KL→86万KL、同+64.7%、342億円→1,103億円、同3.2倍)からが増加し、8か月ぶりのプラスとなった。

また、金属鉱及びくず(966億円→1,213億円、同+25.6%)は、チリ(218億円→360億円、同+65.1%)及びオーストラリア(223億円→333億円、同+49.5%)からが増加し、7か月連続のプラスとなった。

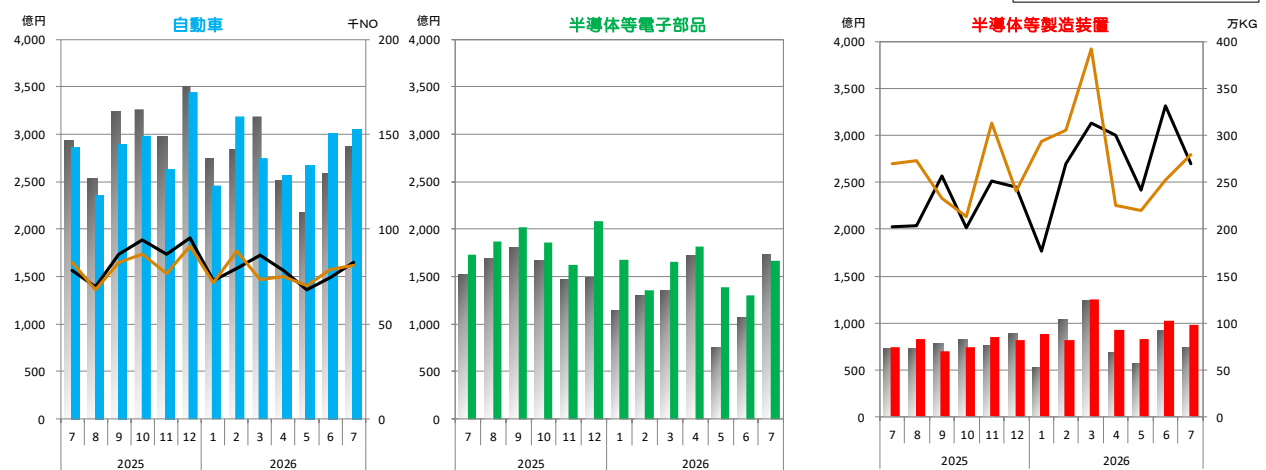
一方、石油製品(389億円→293億円、同▲24.7%)は、アラブ首長国連邦(201億円→実績なし)及び韓国(70億円→38億円、同▲45.7%)からが減少し、3か月ぶりのマイナスとなった。

※ 伸率及び増加・減少は、すべて対前年同月比

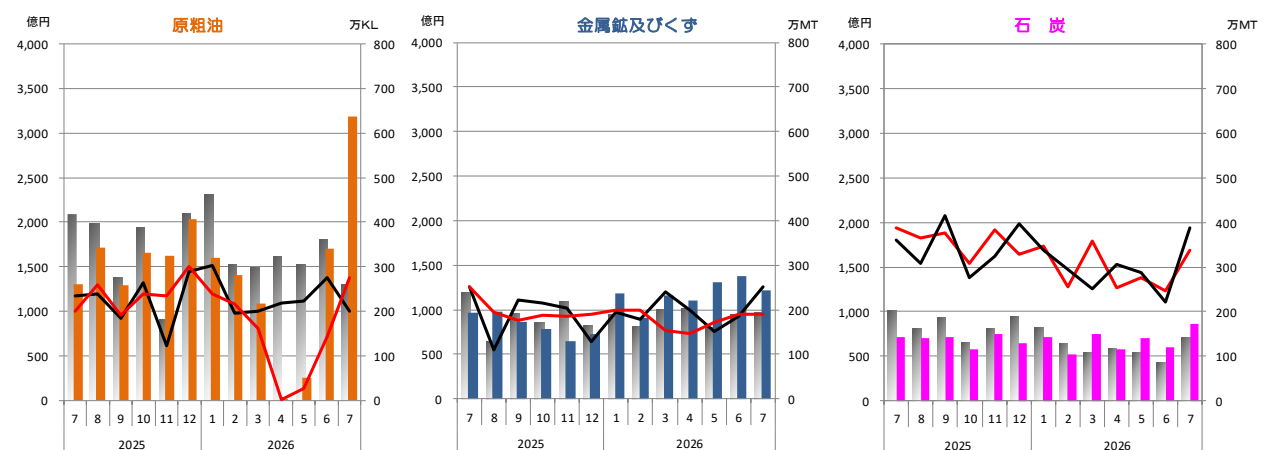
令和8年7月分：速報



九州圏の輸出主要品目推移



九州圏の輸入主要品目推移



※この内容を引用されるときは、「門司税関発表による」と付記してください。